

福岡県内の病院における  
ジェネリック医薬品の採用状況等調査

福岡県保健福祉部薬務課

1

○調査方法

対象病院:福岡県病院協会会員(244病院)

調査方法:アンケート郵送

回収方法:郵送(返信用封筒同封)

調査期間:平成18年9月11日

~10月10日

○結果

232施設が回答(95.1%)

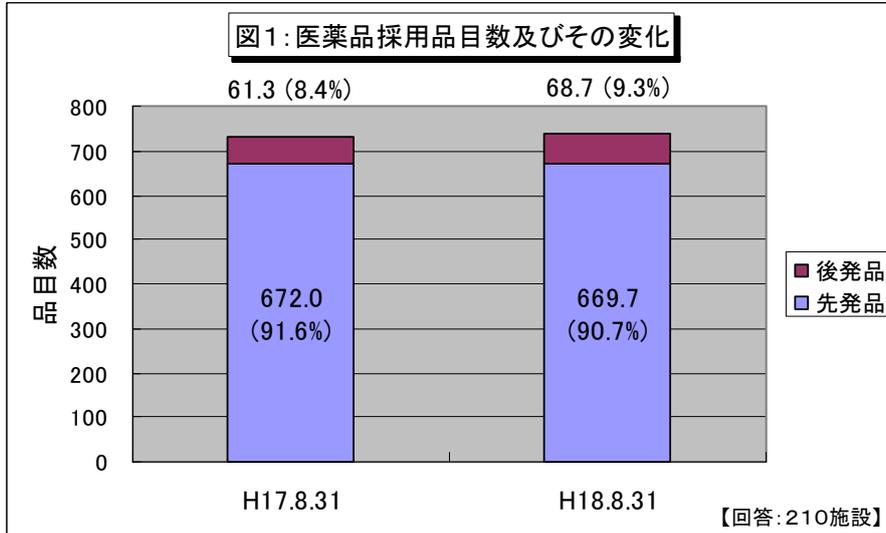
○記入者:医師(14)、薬剤師(171)、事務系(39)

無回答その他(8)

2

【院内：問1】

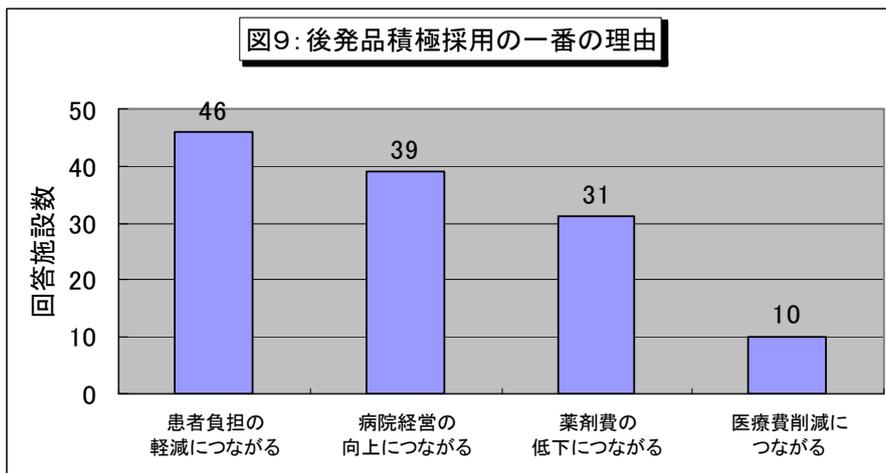
図1: 医薬品採用品目数及びその変化



※平成17年と平成18年の全項目に回答のあった210施設

【院内：問5】

図9: 後発品積極採用の一番の理由



※問4で「後発品を積極採用」と回答した107施設の採用理由1位

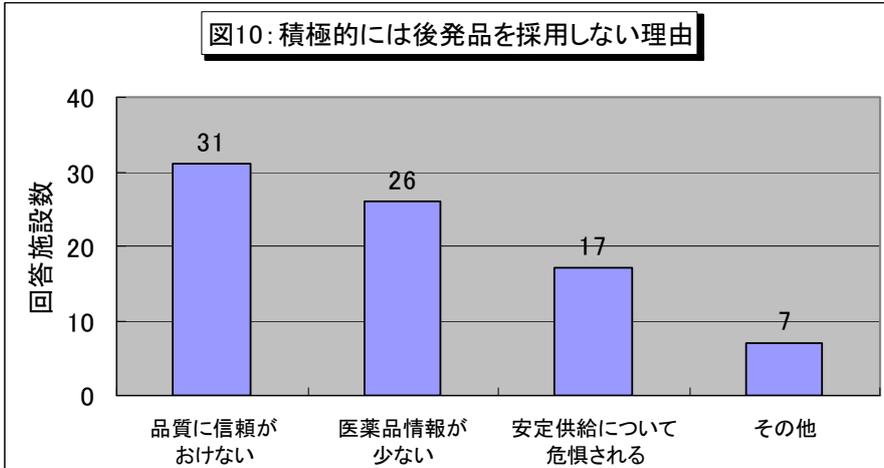
【回答: 107施設】

※複数回答（同率1位）の施設も含む

※「その他（療養病床の包括対応）」が1施設

【院内：問6】

図10：積極的には後発品を採用しない理由



※問4で「後発品の採用に積極的ではない」と回答した42施設

【回答：42施設】

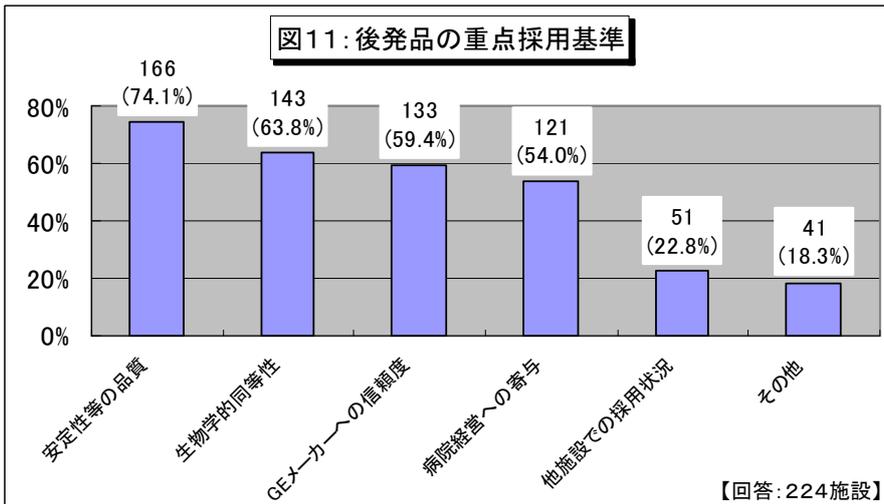
※複数回答

◆その他の内容

- ・非常勤医が多いため先発品が利用しやすい(1)
- ・薬価差益(1)
- ・(患者に)医療の質を落としたと思われないか心配(1) 等

【院内：問7】

図11：後発品の重点採用基準



※複数回答可 ※無回答8施設

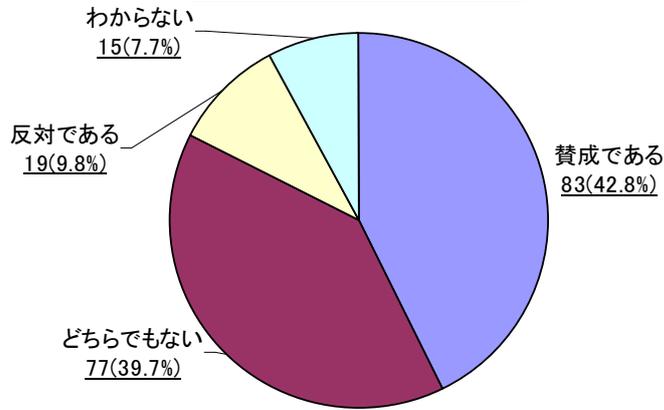
【回答：224施設】

◆その他の内容

- ・安定供給できるか(回答多数)
- ・患者の負担軽減になるか
- ・先発品より服用しやすい剤形 等

【院外：問2】

図21：処方せん様式の変更

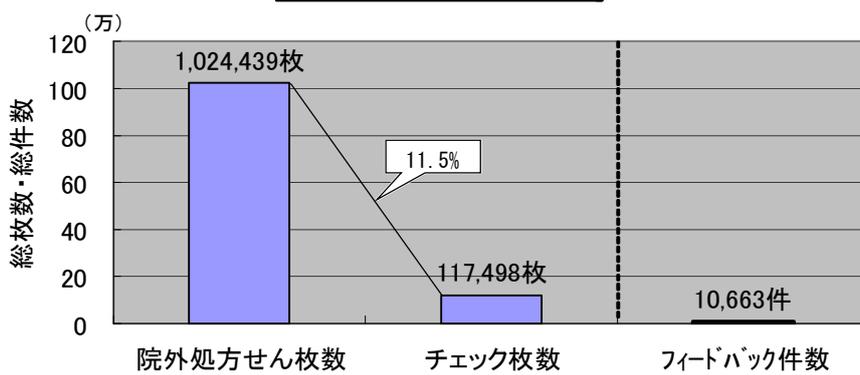


【回答：194施設】

※無回答38施設

【院外：問4、5】

図23：院外処方せんの動向



※問1で院外処方せんを発行していると回答のあった138施設中、  
問4と問5で枚数、件数ともに回答のあった85施設のもの。  
※チェックされた処方全てが後発品に変更されるものではない。

【回答：85施設】

【院外：問7】

**問7：後発品に関して患者との間でトラブルになったことなど**

◆薬剤費に関すること

- ・マスコミで報道されているように医療費（個人負担分）が少なくなっていないとの苦情
- ・金額があまり変わらない。
- ・後発品が処方されたが、価格が高かったという問い合わせもあった。
- ・値段がものすごく安くなると思っていた患者、医師がいた。

◆効果等に関すること

- ・患者によっては後発品に対して何らかの不安を訴えることがある。
- ・後発品では効かないといって先発品を希望した患者もいた。
- ・特に高齢の患者において、後発品への変更により体調不良を訴え、先発品に戻すケースが数例あった。

◆説明に関すること

- ・後発品に対しての不安を取り除くための説明に時間がかかる。
- ・薬の効果について薬剤師が自信を持たず、患者に不安を与えることがある。
- ・医師により「同じ薬」と説明があるため、トラブルなし。

◆供給に関すること

- ・処方された後発品が薬局に備蓄されておらず、後日、薬局に再訪することになった。

【28／232施設】